



リモート プレゼンスの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [Serial over LAN の設定](#) (1 ページ)
- [仮想メディアの設定](#) (3 ページ)
- [KVM コンソール](#) (11 ページ)
- [KVM コンソールの起動](#) (12 ページ)
- [仮想 KVM コンソール \(Java ベース\)](#) (13 ページ)
- [仮想 KVM コンソール](#) (18 ページ)
- [Java ベース KVM と HTML5 ベース KVM の比較](#) (23 ページ)
- [仮想 KVM の設定](#) (24 ページ)

Serial over LAN の設定

Serial over LAN を使用すると、管理対象システムのシリアルポートの入出力を IP 経由でリダイレクトできます。ホストコンソールへ Cisco IMC を使用して到達する場合は、サーバで Serial over LAN を設定して使用します。



重要 ネイティブシリアルリダイレクトと serial over LAN 同時に使用することはできません。

始める前に

Serial over LAN を設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
 - ステップ 2** [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
 - ステップ 3** 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [Remote Presence] ペインの [Serial over LAN] タブをクリックします。

ステップ 5 [Serial over LAN Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Enabled] チェックボックス	オンにすると、このサーバで Serial over LAN (SoL) がイネーブルになります。
[Baud Rate] ドロップダウン リスト	システムが SoL 通信に使用するボー レート。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [9600 bps] • [19.2 kbps] • [38.4 kbps] • [57.6 kbps] • [115.2 kbps]
[Com Port] ドロップダウン リスト	システムが SoL 通信をルーティングするシリアル ポート。 <p>(注) このフィールドは一部の C シリーズサーバだけで使用できます。使用できない場合、サーバは、SoL 通信に COM ポート 0 を使用します。</p> <p>次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [com0] : SoL 通信は、外部デバイスへの物理 RJ45 接続またはネットワーク デバイスへの仮想 SoL 接続をサポートする、外部からアクセス可能なシリアル ポートである COM ポート 0 を介してルーティングされます。 <p>このオプションを選択すると、システムは、SoL をイネーブルにし、RJ45 接続をディセーブルにします。これは、サーバが外部シリアル デバイスをサポートできなくなることを意味します。</p> • [com1] : SoL 通信は、SoL だけを介してアクセス可能な内部ポートである、COM ポート 1 経由でルーティングされます。 <p>このオプションを選択した場合、COM ポート 1 上の SoL および COM ポート 0 上の物理 RJ45 接続を使用できます。</p> <p>(注) Com Port 設定を変更すると、既存のすべての SoL セッションは切断されます。</p> <p>(注) このオプションを使用できるのは一部の C シリーズサーバだけです。</p>

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

仮想メディアの設定

始める前に

仮想メディアを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[コンピューティング (Compute)]タブをクリックします。
- ステップ 2** [コンピューティング (Compute)]タブの[リモート管理 (Remote Management)]タブをクリックします。
- ステップ 3** [リモート管理 (Remote Management)]タブで、[仮想メディア (Virtual Media)]タブをクリックします。
- ステップ 4** [仮想メディアプロパティ (Virtual Media Properties)]領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Enabled] チェックボックス	オンにすると、仮想メディアがイネーブルになります。 (注) このチェックボックスをオフにすると、すべての仮想メディアデバイスはホストから自動的に切断されます。
[Active Sessions] フィールド	現在実行されている仮想メディア セッションの数。
[Enable Virtual Media Encryption] チェックボックス	オンにすると、すべての仮想メディア通信は暗号化されます。
[Low Power USB enabled] チェックボックス	これを選択すると、低電力 USB が有効になります。 低電力 USB が有効化された場合、ISO をマッピングしてホストを再起動した後、ブート選択メニューに仮想ドライブが表示されます。

ステップ 5 [Save Changes] をクリックします。

Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2** [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
- ステップ 3** 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Remote Management] タブで、[Virtual Media] タブをクリックします。
- ステップ 5** [Current Mappings] 領域で、[Add New Mapping] をクリックします。
- ステップ 6** [Add New Mapping] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[Volume] フィールド	マッピング用にマウントされるイメージの ID。
[Mount Type] ドロップダウンリスト	<p>マッピングのタイプ。次のいずれかになります。</p> <p>(注) 選択したマウントタイプの通信ポートがスイッチでイネーブルになっていることを確認します。たとえば、マウントタイプとして CIFS を使用している場合は、ポート 445（これはその通信ポートです）がスイッチでイネーブルになっていることを確認します。同様に、HTTP の場合はポート 80、HTTPS の場合は 443、NFS の場合は 2049 をそれぞれイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : ネットワーク ファイル システム。 • [CIFS] : Common Internet File System。 • [WWW(HTTP/HTTPS)] : HTTP ベースまたは HTTPS ベースのシステム。 <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバに ping を実行することによって、エンドサーバへの到達可能性の確認を試みます。</p>

名前	説明
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	マップするイメージの URL。形式は選択された [Mount Type] によって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• [NFS] : serverip:/share を使用します。• [CIFS] : serverip://share を使用します。• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://serverip/share を使用します。
[Remote File] フィールド	リモート共有の .iso または .img ファイルの名前と場所。

名前	説明
[Mount Options] フィールド	

名前	説明
	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウント オプション。オプションは選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • rw <p>(注) 共有されているフォルダは、読み取り/書き込みオプションを使用するための書き込み権限を持っている必要があります。読み取り/書き込みオプションは、.img ファイルに対してのみ使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • nolock • noexec • soft • port=VALUE • timeo=VALUE • retry=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • soft • nounix • noserverino • guest • [username=VALUE] : guest が入力された場合は無視されます。 • [password=VALUE] : guest が入力された場合は無視されます。 • sec=VALUE <p>リモートサーバとの通信時に認証に使用するプロトコル。CIFS 共有の設定に応じて、[VALUE] の値は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : 認証は使用されません。

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Ntlm] : NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。 • [Ntlmi] : NTLMi のセキュリティプロトコル。このオプションは、CIFS Windows サーバでデジタル署名が有効な場合のみ使用します。 • [Ntlmssp] : NT LAN Manager のセキュリティサポートプロバイダー (NTLMSSP) プロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。 • [Ntlmsspi] : NTLMSSPi プロトコル。このオプションは、CIFS Windows サーバでデジタル署名が有効な場合のみ使用します。 • [Ntlmv2] : NTLMv2 セキュリティプロトコル。このオプションは、Samba Linux でのみ使用します。 • [Ntlmv2i] : NTLMv2i のセキュリティプロトコル。このオプションは、Samba Linux でのみ使用します。 <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • noauto <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバに ping を実行することによって、エンドサーバへの到達可能性の確認を試みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • username=VALUE • password=VALUE
[User Name] フィールド	選択された [Mount Type] のユーザ名 (必要な場合)。
[Password] フィールド	選択されたユーザ名のパスワード (必要な場合)。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco IMC マップされた vMedia ボリューム プロパティの表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
- ステップ 3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Remote Management] タブで、[Virtual Media] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Current Mappings] テーブルから行を選択します。
- ステップ 6 [Properties] をクリックし、次の情報を確認します。

名前	説明
[Add New Mapping] ボタン	新しいイメージを追加できるダイアログボックスが開きます。
[Properties] ボタン	選択したイメージのプロパティを表示または変更できるダイアログボックスが開きます。
[Unmap] ボタン	マウントされた vMedia のマップを解除します。
Last Mapping Status	最後に試行されたマッピングのステータス。
[Volume] カラム	イメージの ID。
[Mount Type] ドロップダウンリスト	マッピングのタイプ。
[Remote Share] フィールド	イメージの URL。
[Remote File] フィールド	イメージの厳密なファイル位置。

名前	説明
[Status] フィールド	<p>マップの現在のステータス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [OK] : マッピングは正常です。 • [In Progress] : マッピングが進行中です。 • [Stale] : Cisco IMC にマッピングが古いという理由を示すテキスト文字列が表示されます。 • [Error] : Cisco IMC にエラーの理由を示すテキスト文字列が表示されます。

Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームの削除

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
- ステップ 3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Remote Management] タブで、[Virtual Media] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Current Mappings] テーブルから行を選択します。
- ステップ 6 [Unmap] をクリックします。

既存の Cisco IMC vMedia イメージの再マッピング

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。

- ステップ3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ4 [Remote Management] タブで、[Virtual Media] タブをクリックします。
- ステップ5 [Current Mappings] テーブルから行を選択します。
- ステップ6 [Remap] をクリックします。

Cisco IMC vMedia イメージの削除

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
 - ステップ3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Remote Management] タブで、[Virtual Media] タブをクリックします。
 - ステップ5 [Current Mappings] テーブルから行を選択します。
 - ステップ6 [Delete] をクリックします。
-

KVM コンソール

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ
- ネットワーク上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- ネットワーク上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- ネットワーク上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用してサーバに OS をインストールできます。



- (注) S3260 ストレージサーバに KVM コンソールを正常に設定するには、Cisco IMC、CMC および BMC コンポーネントの IP アドレスを設定する必要があります。CLI インターフェイスまたは Web UI を使用してこれらのコンポーネントの IP アドレスを設定できます。CLI の場合は、コマンド `scope network` を使用するか、または `scope <chassis/server1/2><cmc/bmc><network>` を使用して設定を表示します。

Web インターフェイスでネットワーク コンポーネントの IP アドレスを設定するには、「**ネットワーク関連の設定**」の項に記載する手順を参照してください。



- (注) Windows Server 2003 の Internet Explorer 6 SP1 から KVM コンソールを起動すると、必要なファイルをダウンロードできないことがブラウザから報告されます。この場合、ブラウザの [Tools] メニューをクリックし、[Internet Options] を選択します。[Advanced] タブをクリックし、[Security] セクションの [Do not save encrypted pages to disk] チェックボックスをオフにします。KVM コンソールを再度起動します。

KVM コンソールの起動

KVM コンソールは、ホームページまたは [Remote Management] 領域から起動できます。

手順

- ステップ 1 ホームページからコンソールを起動するには、[Navigation] ペインで、[Chassis] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Chassis] メニューの [Summary] をクリックします。
- ステップ 3 ツールバーから、**[KVM の起動 (Launch KVM)]** をクリックし、**[Java ベース KVM (Java based KVM)]** または **[HYML ベース KVM (HTML based KVM)]** を選択します。
- ステップ 4 [Servers] ドロップダウンメニューで、サーバを選択します。
- ステップ 5 または、[Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 6 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
- ステップ 7 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ 8 [Remote Management] ペインで、[Virtual KVM] タブをクリックします。
- ステップ 9 **[仮想 KVM (Virtual KVM)]** タブで、**[Java ベース KVM コンソールの起動 (Launch Java based KVM console)]** または **[HTML ベース KVM コンソールの起動 (Launch HTML based KVM console)]** をクリックします。

- ステップ 10** 必須: ポップアップ ウィンドウに表示されている URL リンク (HTML ベースの KVM コンソールのみ) をクリックして、クライアント アプリケーションをロードします。KVM コンソールを起動するたびにリンクをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソール (Java ベース)

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。遠隔地のサーバから接続して制御し、この KVM セッション中にアクセスできる仮想ドライブに物理ロケーションをマッピングすることができます。



重要 KVM コンソールには、Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.5.0 以降が必要です。

[KVM Console] タブ

このタブは、サーバへのコマンドラインアクセスを提供します。このタブで使用可能なメニュー オプションは以下のとおりです。

[ファイル (File)] メニュー

メニュー項目	説明
オープン (Open)	画面レコーディングの保存されたファイルを選択して、そのビデオを再生できる [Open] ダイアログボックスを開きます。
[ファイルにキャプチャ (Capture to File)] ボタン	JPG イメージとして現在の画面を保存できる [保存 (Save)] ダイアログボックスが開きます。
[Paste Text From Clipboard] ボタン	KVM コンソールを使用して、クリップボードからサーバにテキストをコピーできます。
[Paste Text From File] ボタン	KVM コンソールを使用して、リモート ファイルからサーバにテキストをコピーできます。
[終了 (Exit)] ボタン	KVM コンソールを閉じます。

[View] メニュー

[Macros] メニュー

リモート システムで実行するキーボードショートカットを選択します。

[Tools] メニュー

メニュー項目	説明
[Session Options] ボタン、 [General] タブ	[Session Options] ダイアログボックスの [General] タブにより、コンソールが [Windowed] モードのときにすべてのキーストロークがターゲット システムに送られるかどうかを指定できます。デフォルトは no です。
[Session Options] ボタン、 [Mouse] タブ	<p>[Session Options] ダイアログボックスの [Mouse] タブにより、次の項目を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [終了キー (Termination Key)] : シングル カーソル モードを終了するために使用するキー。デフォルトは F12 です。 • [Mouse Acceleration] : USB マウスの位置決めを変更できます。デフォルトは [Absolute Positioning] です。 <p>(注) 使用中のシステムとリモートシステムの間でマウスの動きに問題がある場合は、マウス アクセラレーション モードを変更してください。</p> <p>どのモードでも問題が解決しない場合は、[Single Cursor] ツールを使用して、リモート マウスの代わりにローカル マウスを使用できます。</p> <p>それでも機能しない場合は、このオプションを [No Acceleration] に設定し、リモート サーバのオペレーティングシステムに切り替え、システム設定のマウス アクセラレーションを [None] に設定します。</p>
[Session Options] ボタン、 [Security] タブ	[Session Options] ダイアログボックスの [Security] タブにより、ユーザが一致しなくても許可されるセキュアでない接続のタイプを指定し、以前に許可された接続をクリアにできます。
[Session Options] ボタン、 [Scaling] タブ	[Session Options] ダイアログボックスの [Scaling] タブにより、コンソールが [windowed mode] または [full screen mode] のときにアスペクト比メンテナンスが有効になるかどうかを指定できます。デフォルトは、[Windowed Mode] です。
[Session Options] ボタン、 [Mini-Mode] タブ	[Session Options] ダイアログボックスの [Mini-Mode] タブにより、[Mini-Mode] のときに KVM/vMedia クライアントのサイズを指定できます。

メニュー項目	説明
[Session Options] ボタン、 [Video Recording] タブ	<p>[Session Options] ダイアログボックスの [Video Recording] タブにより、次の項目を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単一の KVM レコーディングで使用されるディスク スペースの最大容量。 • 継続的レコーディングのバッファでのディスク スペース使用量。 • 継続的レコーディングを有効とするかどうかを選択します。 <p>(注) 最大継続的レコーディングファイルサイズは継続的レコーディング容量以上にする必要があります。継続的レコーディングのデフォルト値は 1000 MB です。</p>
[Session Options] ボタン、 [Certificate] タブ	<p>[Session Options] ダイアログボックスの [Certificate] タブでは、現在のセッションで使用される証明書の詳細を表示し、エクスポートされる証明書ファイルの名前とパスを設定できます。</p>
[シングルカーソル (Single Cursor)] ボタン	<p>一部のリモートオペレーティングシステムで検出されたマウスの位置決めの問題を補正するシングルカーソル機能をオンにします。この機能をオンにすると、マウスポインタの位置がビューワウィンドウ内に制限されます。</p> <p>機能をオフにするには、[Session Options] ダイアログボックスで指定された終了キーを押します。デフォルトは F12 です。</p>

メニュー項目	説明
[Stats] ボタン	<p>[統計情報 (Stats)] ダイアログボックスが開き、[Live KVM] には次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KVM セッションの統計情報。 • フレーム レート。単位は、フレーム数/秒です。 • 帯域幅。単位は、KB/秒です。 • 圧縮率。単位は、使用される圧縮パーセンテージです。 • パケット レート。単位は、パケット/秒です。 <p>USB 接続をリセットする [Kbd/マウスUSBリセット (Kbd/Mouse USB Reset)] ボタン。サーバに接続されているすべての USB デバイスを、vMedia アクティベーションの有無に関わらずリセットすることができます。</p> <p>(注) USB リセット ボタンをクリックすると、次のメッセージが表示されます：USB 接続をリセットすると、キーボードおよびマウスに影響が及ぶことがあります。 [はい (Yes)] をクリックすると USB 接続をリセットします。</p> <p>vMedia がアクティブになると、[Stats] ダイアログボックスに以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vMedia の転送速度。1 秒間に転送されたデータ量です。 • ホストサーバのデバイスがマッピングされているローカルのデバイスまたはイメージファイルの種類。 • マッピングするデバイスの経過時間。 • サーバで送受信されたバイト数。
[Session User List] ボタン	<p>アクティブ KVM セッションを持つすべてのユーザ ID を表示する [Session User List] ダイアログボックスを開きます。</p>
[Chat] ボタン	<p>仮想コンソールビューワで使用できるチャットインターフェイスを通じて、他の仮想コンソールユーザと通信します。チャットはすべての Cisco UCS サーバでサポートされているわけではありません。</p> <p>(注) チャットウィンドウは最小化できず、ウィンドウを閉じるとチャット履歴は保存されません。サーバの電源をオフにしてもチャットはできます。</p>

メニュー項目	説明
[Recorder /Play Controls] ボタン	<p>KVM ビデオの録音と再生のためのデジタル ビデオ レコーダ (DVR) が開きます。[Record/Playback] フローティング ツールバーでは、次の機能が使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Play/Pause] • 早送り • [Rewind]、[Skip Back] • [Slider] • [Return to Start] • [Go to End] • [Live Mode] • [Record/Stop Recording] • Open
[Export Video] ボタン	<p>以下の項目を指定できる [Export Video] ダイアログを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウェブ UI からダウンロードされたか、または KVM レコード機能で作成されたソース ファイル。 • MOV などの形式を指定した宛先ファイル。 • エクスポートする動画ファイルの解像度。デフォルトの解像度は 640 X 480、推奨解像度は 1024 X 768 です。

[Power] メニュー

メニュー項目	説明
[Power On System] ボタン	<p>システムの電源を入れます。</p> <p>このオプションは、システムの電源がオンになっている場合は無効で、システムの電源がオフになっている場合に有効です。</p>
[Power Off System] ボタン	<p>仮想コンソールセッションからシステムの電源をオフにします。</p> <p>このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。</p>

メニュー項目	説明
[Reset System (warm boot)] ボタン	電源をオフにすることなくシステムを再起動します。 このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。
[Power Cycle System (cold boot)] ボタン	システムの電源をオフにしてから、再度オンにします。 このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。

[Boot Device] メニュー

名前	説明
[No Override]	このオプションをオンにすると、ホストは設定されている最初のデバイスを起動できます。
[Boot Device] リスト	サーバの起動に使用するブートデバイスのリスト。次回のサーバブートに対してのみ使用され、現在設定されているブート順序が乱されることはありません。ワンタイムブートデバイスからサーバを起動すると、事前に設定されているブート順で以降のすべてのリブートが行われます。最大 15 のデバイスが KVM コンソールに表示されます。

仮想 KVM コンソール

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。遠隔地のサーバから接続して制御し、この KVM セッション中にアクセスできる仮想ドライブに物理ロケーションをマッピングすることができます。

[ファイル (File)] メニュー

メニュー項目	説明
クリップボードからテキストを貼り付ける	[クリップボードからテキストを貼り付け (Paste Text From Clipboard)] ダイアログボックスが開き、コンテンツを貼り付けることができます。

メニュー項目	説明
ファイルにキャプチャ	JPG イメージとして現在の画面を保存できる [保存 (Save)] ダイアログボックスが開きます。
終了	KVM コンソールを閉じます。

[View] メニュー

メニュー項目	説明
Keyboard	ユーザがデータの入力に使用できる KVM コンソールの仮想キーボードを表示します。
[更新 (Refresh)]	サーバの現在のビデオ出力を使用してコンソール表示を更新します。
Full Screen	画面全体になるように KVM コンソールを拡大します。

[Macros] メニュー

リモート システムで実行するキーボードショートカットを選択します。

メニュー項目	説明
[サーバマクロ (Server Macros)] メニュー	Cisco IMC からダウンロードされたサーバサイドマクロがある場合、表示します。サーバサイドマクロがダウンロードされていない場合、このメニュー項目は無効になります。
[静的マクロ (Static Macros)] メニュー	マクロの定義済みのセットを表示します。
[ユーザ定義マクロ (User Defined Macros)] メニュー	作成済みのユーザ定義マクロを表示します。
Manage	マクロの作成および管理ができる [Configure User Defined Macros] ダイアログ ボックスを開きます。 システム定義されたマクロは削除できません。

[Tools] メニュー

メニュー項目	説明
[Session Options]	<p>以下の項目が指定できる [セッションオプション (Session Options)] ダイアログを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scaling] : 画面の縦横率を維持するかどうかを指定します。 [Maintain Aspect Ratio] チェックボックスをオンまたはオフにします (デフォルトはオン)。 • ターゲットシステムで使用するマウスアクセラレーション。デフォルトは、 [Absolute positioning (Windows, Newer Linux & MAC OS X)] です。その他のオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Relative Positioning, no acceleration • Relative Positioning (RHEL, Older Linux)
[セッション ユーザ リスト (Session User List)]	<p>アクティブ KVM セッションを持つすべてのユーザ ID を表示する [セッションユーザリスト (Session User List)] ダイアログ ボックスを開きます。</p>
[Chat]	<p>他のユーザと通信するための [Chat] ボックスを開きます。</p>
統計 (Stats)	<p>[統計情報 (Stats)] ダイアログボックスが開き、 [Live KVM] には次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KVM セッションの統計情報。 • フレーム レート。単位は、フレーム数/秒です。 • 帯域幅。単位は、KB/秒です。 • 圧縮率。単位は、使用される圧縮パーセンテージです。 • パケット レート。単位は、パケット/秒です。 <p>vMedia がアクティブになると、 [Stats] ダイアログ ボックスに以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vMedia の転送速度。1 秒間に転送されたデータ量です。 • ホスト サーバのデバイスがマッピングされているローカルのデバイスまたはイメージ ファイルの種類。 • マッピングするデバイスの経過時間。 • サーバで送受信されたバイト数。 • サーバに接続されたすべての USB デバイスをリセットするための [USB のリセット (USB Reset)] ボタン。

メニュー項目	説明
再生コントロール	.dvc ファイルを選択できる [Cisco KVM Playback (Cisco KVM 再生)] ウィンドウが開きます。

[Power] メニュー

メニュー項目	説明
システムの電源オン	システムの電源を入れます。 このオプションは、システムの電源がオンになっている場合は無効で、システムの電源がオフになっている場合に有効です。
システムの電源オフ	仮想コンソールセッションからシステムの電源をオフにします。 このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。
システムのリセット (ウォーム ブート)	電源をオフにすることなくシステムを再起動します。 このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。
システムの電源の再投入 (コールド ブート)	システムの電源をオフにしてから、再度オンにします。 このオプションは、システムの電源がオンの場合に有効で、システムの電源がオフの場合は無効です。

[Boot Device] メニュー

名前	説明
[No Override]	このオプションをオンにすると、ホストは設定されている最初のデバイスを起動できます。

名前	説明
[Boot Device] リスト	サーバの起動に使用するブート デバイスのリスト。次回のサーバブートに対してのみ使用され、現在設定されているブート順序が乱されることはありません。ワンタイムブートデバイスからサーバを起動すると、事前に設定されているブート順で以降のすべてのリブートが行われます。最大 15 のデバイスが KVM コンソールに表示されます。

[Virtual Media] メニュー

名前	説明
Activate Virtual Devices	vMedia セッションをアクティブにし、ユーザがローカル コンピュータまたはネットワークから、ドライブまたはイメージ ファイルをアタッチできるようにします。
[Map CD/DVD]	ローカル マシンから CD または DVD イメージをマップし、イメージにドライブをマップできます。 (注) このオプションは、[Activate Virtual Devices] をクリックした場合に使用できます。
[Map Removable Disk]	ローカル マシンから削除可能なディスク イメージをマップし、イメージにドライブをマップできます。 (注) このオプションは、[Activate Virtual Devices] をクリックした場合に使用できます。
[Map Floppy Disk]	ローカル マシンからフロッピー ディスク イメージをマップし、イメージにドライブをマップできます。 (注) このオプションは、[Activate Virtual Devices] をクリックした場合に使用できます。

[Help] メニュー

名前	説明
Help Topics	このオプションをクリックすると、このウィンドウに戻ります。
[About KVM Viewer]	KVM ビューアのバージョン番号を表示します。

Settings

[Settings] アイコンは、HTML KVM ビューア ウィンドウの右上隅にあります。

名前	説明
[Logged in as:]	ユーザ ロール名を表示します。
[Host Name]	ホスト名を表示します。
[Log Out]	KVM ビューアからログアウトできます。

Java ベース KVM と HTML5 ベース KVM の比較

次の表に、Java ベース KVM と HTML5 ベース KVM の間の相違点を示します。

メニュー オプション	アクション	Java ベース KVM で使用可能	HTML5 ベース KVM で使用可能
ファイル	Open	あり	あり
	Capture to file	あり	あり
	Paste Text from Clipboard	対応	非対応
	Paste Text from File	対応	非対応
	Exit	あり	あり
ビュー	Refresh	あり	あり
	Fit	対応	非対応
	Video-Scaling	対応	非対応
	Full-Screen	あり	あり
	Mini-Mod	対応	非対応
マクロ	Server Macros	あり	あり

メニュー オプション	アクション	Java ベース KVM で使用可能	HTML5 ベース KVM で使用可能
	Static Macros	あり	あり
	User Defined Macros	あり	あり
	Manage	あり	あり
ツール	Session Option	あり	あり
	Single Cursor	対応	非対応
	Stats	対応	非対応 あり
	Session User List	あり	あり
	チャット	あり	あり
	Recorder/Playback Controls	対応	非対応
	Export Video	対応	非対応
電源	Power On	あり	あり
	Power OFF	あり	あり
	Reset System	あり	あり
	Power Cycle system	あり	あり
	Mini-Mod	あり	あり
仮想メディア	Create Image	対応	非対応
	Activate Virtual Devices	あり	あり
	Physical Device Mapping	対応	非対応

仮想 KVM の設定

始める前に

仮想 KVM を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
- ステップ 3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Remote Management] ペインで、[Virtual KVM] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Virtual KVM] タブで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Enabled] チェックボックス	オンにすると、仮想 KVM がイネーブルになります。 (注) 仮想メディア ビューアには KVM を使用してアクセスします。KVM コンソールをディセーブルにすると、Cisco IMC はホストに接続されているすべての仮想メディア デバイスへのアクセスもディセーブルにします。
[Max Sessions] ドロップダウン リスト	許可されている KVM の同時セッションの最大数。選択できる数値は 1 ~ 4 です。
[Active Sessions] フィールド	サーバで実行されている KVM セッションの数。
[Remote Port] フィールド	KVM 通信に使用するポート。
[Enable Video Encryption] チェックボックス	オンにすると、サーバは KVM で送信されるすべてのビデオ情報を暗号化します。
[Enable Local Server Video] チェックボックス	オンにすると、KVM セッションはサーバに接続されているすべてのモニタにも表示されます。

- ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

仮想 KVM のイネーブル化

始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
 - ステップ 3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Remote Management] ペインで、[Virtual KVM] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Virtual KVM] タブで、[Enabled] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。
-

仮想 KVM のディセーブル化

始める前に

仮想 KVM をディセーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
 - ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] メニューでサーバを選択します。
 - ステップ 3 作業ウィンドウの [Remote Management] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Remote Management] ペインで、[Virtual KVM] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Virtual KVM] タブで、[Enabled] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。
-